

令和7年度 みんなで語ろう
こども 市長と語ろう
未来のこと
未来会議室



令和七年度

こども未来会議室

報告書

もくじ

はじめに P. 1

こども未来会議室の概要 P. 2

市民団体の紹介 P. 4

みなさんからの提案と市の回答 P. 6

1. 道路や交通安全の充実 P. 6

2. もっと環境によいまちに P. 10

3. もっと住みやすいまちに P. 14

4. 船橋をもっと盛り上げよう P. 26

5. 学校（学習）の改善 P. 36

これまでに実現した主な提案 P. 46

本番の様子 P. 52

はじめに



中学生の皆さん素晴らしい提案をありがとう!

船橋市長 松戸 徹

平成26年度に始まった「こども未来会議室」は、今回で11回目を迎えました。「こども未来会議室」の事前学習で素晴らしい提案を考えてくれたみなさん、また、夏休みの貴重な時間に各校の代表として「こども未来会議室」に参加してくれたみなさん、本当にありがとうございました。

今回の提案は、地域を活性化させる提案や、防災・防犯に関する提案が多くあり、これからの時代を担うみなさんから、船橋の未来を真剣に思う提案がされたことを嬉しく、また、頼もしく感じています。今回の提案も、どれも新鮮で素晴らしいものばかりでした。

本事業にご理解、ご協力をいただいた各校の先生方、保護者の皆様、そして、1回目から企画と運営に携わっていただいている市民団体の皆様にも、心からお礼を申し上げます。

みなさんからいただいた素晴らしい提案に対して、市としてどのようなことができるのか、市役所の部署のみではなく、関係する様々な団体の方とも真剣に協議を重ねて、この報告書を作成しました。

実現できるかどうか話し合いを続けていく提案や、実現に長い時間がかかる提案もありますが、みなさんの熱い思いはしっかり届いています。若いみなさんがこれからも社会の主人公として、頑張ってくれることを心から期待しています。

こども未来会議室の概要（令和7年度）

1. 事業名称

こども未来会議室 ～船橋の未来に“たね”をまこう～

2. 目的

こどもたちと市長が船橋の将来を語り合う場を設け、船橋市の現状をこどもたちに伝え、まちづくりを意識してもらいながら、将来を見据えた意見交換を行い、こどもたちの視点を活かした市政運営につなげます。また、こどもたちにまちづくりに参加できる場を提供し「みんなで真剣に考えれば社会が動く」という体験をしてもらうことを目的に実施しています。

3. 企画・運営

「こども未来会議室」は、4つの市民団体（さざんか募金運動推進協議会、船橋商工会議所青年部、船橋法人会青年部会、船橋青年会議所）と市役所の若手職員でプロジェクトチームを立ち上げ、事前学習の資料やポスターの提供、各校の発表時や各校への質問を行う意見交換等が有意義なものになるように、企画から運営まで行っています。

4. 実施体制

「こども未来会議室」は、主権者教育の視点を踏まえ、教育委員会及び各学校の協力のもと、生徒が市政に関心を持ち、自らの意見を表明する機会として実施しています。

5. 対象学校・対象学年・参加人数

対象学校：市内28中学校（公立26校、私立1校、県立船橋夏見特別支援学校）

対象学年：2年生

参加人数：各校2名（県立船橋夏見特別支援学校：1名）

6. 事前学習

「こども未来会議室」の開催前に市立中学校全26校で実施した事前学習は、2年生全員が参加し、船橋市の良いところや問題点などについて話し合いが行われました。この事前学習では、一人ひとりが船橋の将来についてしっかりと考え、船橋市民であることを自覚し、地域の発展にかかわる意欲を持ってもらうことができたと思います。



古和釜中の事前学習

宮本中の事前学習

行田中の事前学習

7. 実施内容

第1部 テーマに沿った意見発表

「こども未来会議室」のテーマ【「私たちが市長になったら〇〇します！」～魅力あるまち船橋へ～】について、各校の代表となった2名の生徒が事前学習でまとめた意見を市長に向けて発表しました。

学校ごとに工夫を凝らし、「船橋市の北部を開発します！」「災害時のための活動を通して地域を活性化します！」といった地域の発展や防災に関する提案のほか、「船橋アプリで船橋の魅力を伝えます！」「特産品で船橋市をより魅力的なまちにします！」といった市公式アプリや特産品を用いた魅力発信に関する提案、「熱中症対策として中学校に自動販売機を設置します！」「みんなが学ぶ機会を得られるまちにします！」といった学校生活や学習環境に関する提案など、様々な提案が市長に伝えられました。

発表後は各校で意見交換を行い、市長から、提案一つひとつに対して市の現状や今後の取組などについて丁寧に説明がありました。

第2部 市長室見学ツアー

市長室では、市長から、市長室全体の案内や仕事内容、市の様々なことを決定する「決裁」に関する説明などがありました。その後、市長の椅子に座り、市長、船えもん、ばか面おどりの踊り手と一緒に記念撮影をしました。

代表生徒のみなさんは、市長の説明に熱心に耳を傾けており、市職員でもなかなか入ることのない市長室に興味津々の様子でした。



1日目



2日目



3日目



4日目

8. 開催日時

様々な地域の生徒と意見交換ができるよう地域を混合し、4回に分けて開催しました。

開催日	1日目	2日目	3日目	4日目
	7月30日(水)	8月4日(月)	8月5日(火)	8月7日(木)
参加校	湊中	海神中	(県)船橋夏見特別支援学校	船橋中
	葛飾中	行田中	宮本中	若松中
	法田中	飯山満中	旭中	二宮中
	御滝中	三田中	高根中	七林中
	芝山中	古和釜中	八木が谷中	三山中
	習志野台中	大穴中	前原中	高根台中
	豊富中	小室中	(私)千葉日本大学第一中	坪井中
学校数：計28校	7校	7校	7校	7校
生徒数：計55名	14名	14名	13名	14名



■開催時間 13:00~16:30

■開催場所：船橋市職員研修所及び市役所本庁舎9階市長室

9. 市民団体の紹介

「こども未来会議室」の開催にあたり、企画から運営まで携わっていただいた4つの市民団体を紹介します！

さざんか募金運動推進協議会

JR・東武アーバンパークライン船橋駅コンコースにシンボル像「さっちゃん像」があり、みなさんの待ち合わせスポットとして活用されていて、実は募金箱になっています。募金は主に、青少年健全育成のための事業などへの資金援助や、母子・父子家庭の高校生・障害児のための奨学金の給付などに使われています。



船橋市のシンボル
さざんかさっちゃん



船橋商工会議所青年部

船橋商工会議所青年部（船橋YEG）は、次代の地域経済を担う後継者の相互研鑽の場として、また、青年経済人として資質向上と日本全国の商工会議所との交流や国際研修事業などを通じ、己の企業の発展と豊かな地域経済社会を築くことを目的としており、各委員会にて様々な事業を展開しています。

私たちは、船橋が本当に好きで、明るい豊かなまちにしたいと考える団体です。

※YEG（若き起業家集団）とは、商工会議所青年部の英語名（Young Entrepreneus Group）の頭文字をとったもので、商工会議所青年部の持つコンセプト（若さ、情熱、広い視野）を持った経営者＝Youth,Energy,Generalist を表しています



船橋法人会青年部会

会社を経営するために、切っても切り離せないのが納税です。法人会は、全国に約100万社の会員企業があり、「税」をキーワードに健全な会社経営、経営者育成を目指し、研修会や専門的勉強会、親睦会など税務署や関係諸団体の協力を得て、様々な事業やイベントを開催しています。

その中でも青年部会は、50歳までの経営者や次世代の企業経営者になる若者に、更なるステップアップや、仲間を増やし友情を育むことを目的に掲げて、地域の発展と企業の繁栄を目指し活動している団体です。



船橋青年会議所

船橋青年会議所は、20歳から40歳までの青年が明るい豊かな社会の実現を理想とし、「修練」「奉仕」「友情」の3つの信条のもと、よりよい社会づくりを目指し、ボランティアや行政改革などの社会的課題に積極的に取り組んでいる団体です。

また、国際的な組織でもあり、世界125か国に17万人を超える会員がおり、日本では全国47都道府県698の地域に約3万6千人の会員がいます。40歳で卒業となりますが、卒業されたOBは世界で250万人以上おり、元米国大統領のビル・クリントンさんやマイクロソフト創業者のビル・ゲイツさんなども所属していました。日本では、元内閣総理大臣の小泉純一郎さん、その息子である小泉進次郎さんなども活動していました。

船橋青年会議所では、次代の社会の担い手、推進力として明るい豊かなまちづくりの実現のために、市民運動の先頭に立って活動しています。



みなさんからの提案と市の回答

1.道路や交通安全の充実

〈みなさんからの提案〉

道を広くし、自転車と歩行者の道を分離します！

【八木が谷中】

市内の道路は歩道や自転車が通るところが狭く事故の危険性が高いため、自転車と歩行者の道を分離します。道を広くするには、土地の取得が必要となり、お金がかかりますが、交通事故や渋滞等が減れば船橋市がより住みやすい市になることから、道路を拡張し、自転車専用道路を設置して啓発活動を行い、市民の安全を確保します。



※各提案に対して、SDGsの目標に関連するものを表示しています。

〈市の回答〉 (道路計画課・道路建設課・市民安全推進課)

(道路の整備について)

道路における自転車と歩行者の安全確保は、市としても重要な課題と捉えています。

ご提案の「道路を拡張し、自転車専用道路を設置」することは、この課題解決にとっても役立つ施策です。

一方で、「お金がかかる」「土地の取得が必要」というデメリットはご提案で示されたとおりです。特に「土地の取得」については、道路の隣接地にお住まいの方の生活にも大きく影響するため、「お金がかかる」とともに「かなりの時間がかかる」ことも事実です。

市としてはこのような状況から、「自転車専用道路を整備するための道路拡幅」は実施していませんが、歩行者と自転車の安全確保のために自転車走行環境整備事業を行っています。

この事業では、車道左側に自転車専用のレーンや、青色の矢印状のマークを設置して、自転車が通行する位置を示すようにしています。自転車が通行する位置を道路上に示すことにより、「自転車が歩道ではなく車道を通行するようになる」「自動車が、自転車の通行場所を認識して、自転車に配慮した運転をするようになる」といった効果が期待できます。

また、幅の広い道路を作る都市計画道路*整備事業も実施しています。

この事業では広い歩道と車道を整備します。この車道の整備の際に路肩（車道左端白線と歩道縁石の間）も広く整備されることから、その部分に自転車専用のレーンや、青色の矢印状のマークを設置することで、より自転車が走りやすい空間が整備できます。

歩行者と自転車の安全確保のためには、多くの都市計画道路が整備されることが望ましいのですが、土地の取得が必要なことからかなりの時間がかかってしまいます。

このため市では、引き続き都市計画道路の整備を進めるとともに、現状の道路における自転車走行環境の整備を進めることで、早期の歩行者と自転車の安全確保を図っていきます。

（*都市計画道路：都市の将来性に基づいて、都市計画としてあらかじめ位置・幅員・機能を定めた道路のこと。）

（自転車への啓発活動について）

自転車は車道通行が原則であることをはじめとして、自転車の無灯火走行、複数人での走行、傘さしやスマホ等を操作しながらの走行につきましても、市ホームページや各種SNS等を通じた周知や、四季の交通安全運動を通して啓発活動を行っています。また、自転車乗車用ヘルメットの着用率向上のため、自転車乗車用ヘルメット購入費補助事業を実施しているところです。

今後も、自転車利用者の安全な交通環境のため、市民の皆様の安全で快適な生活環境のために、交通ルール・交通マナーの周知、啓発を継続して行っていきます。



整備された自転車走行空間

〈みなさんからの提案〉

街灯の灯りを明るくします！



【船橋中】

下校時や日常生活の中で、暗いと感じた道路を安全にするため、人通りの少ない暗く細い道には、電気使用量を減らし、電気代の費用を削減できる人感センサー付きの照明を設置します。また、街灯のLED化や犯罪を防止する青色照明を導入するほか、市内の生徒たちが考えたデザインの街灯を導入し、よりよい船橋にするため、街灯を増やし夜の道路を明るく安全にします。

〈市の回答〉 (道路維持課・自治振興課)

船橋市内の防犯灯（街灯）の設置と維持管理については地域の状況に詳しい町会・自治会に行っていただいております。市では補助金制度を設けてその活動を支援しています。また、夜間の道路交通の安全を図ることを目的とした道路照明灯は、市内の主要な道路や公共施設に面した道路などに市が設置しています。設置を希望する場所がありましたら、ご連絡ください。調査の上、対応を検討します。

〔人感センサーについて〕

防犯灯や道路照明灯の主な目的は夜間の安全安心の確保です。常時点灯することで、通行者の安全を守るだけでなく、犯罪の抑止効果も期待できます。この点、人感センサーを使用すると、通行者がいないときや、人がいても同じ場所に留まり続けている場合に消灯するため、この目的を十分に果たせない可能性があります。また、防犯灯の電気料金は一般家庭とは異なる特別な契約形態を取っており、使用量に関わらず料金は定額となります。このような事情から実際の運用は難しいですが、防犯灯に人感センサーを導入するというアイデアは、電気使用量の削減を考えられた素晴らしい発想だと思います。

〔街灯のLED化について〕

LEDは従来の蛍光灯と比べて省エネや長寿命などメリットの多い光源になることから、これらの利点を踏まえ、船橋市では平成26年度から防犯灯のLED化を推進してきました。町会・自治会のご協力のおかげで、現在は市内のほとんどの防犯灯がLEDとなっています。

また、道路照明灯についても、令和2年度に既存の道路照明灯のLED化を行い、ほとんどの道路照明灯がLEDとなっています。

〔街灯の青色化について〕

青色の防犯灯が過去に他の自治体で試験的に導入されたことについては承知していますが、その効果については十分な科学的検証がなされていないのが現状です。また、青色の照明になると視認性が低下する可能性があり、交通安全や夜間の歩行者の安全確保といった観点から課題が生じるおそれがあります。さらに、住民の方々の中には慣れない青色照明に違和感を覚える方もいらっしゃるかもしれません。

このように、まだまだ課題が多く導入は難しいですが、犯罪抑止において、とても魅力的なアイデアだと感じました。

〔デザイン街灯の導入について〕

道路照明灯のデザインについては、特殊な意匠を採用すると維持管理の負担やコストが増大するため、安全性や機能性を優先した広範囲に対応できる灯具を採用しています。

2.もっと環境によいまちに

〈みなさんからの提案〉

船橋市の農業を盛り上げる施設の実現やリサイクル活動をします！



【習志野台中】

ごみステーションの近くにごみ箱やコンポストを設置し、生ごみをリサイクルして肥料をつくり、その肥料でブランド野菜を作ることで、市民がリサイクルへ貢献するなど、環境への意識を高めます。また、体験ができる農業施設を増やし、こどもの頃から農業に触れることで、農業の大切さを知り興味を持ってもらい、将来、農業に関わる人を増やしていきます。

〈市の回答〉 (クリーン推進課・農水産課)

〔コンポストについて〕

生ごみについて考えてくれてありがとうございます。

まず、船橋市では家庭から出されるごみの量を減らすため、コンポストなどによる生ごみを減らす取り組みを進めています。より多くの市民の皆さんが気軽にコンポストなどの生ごみ処理容器を使ってもらえるよう、購入費用の一部を助成しており、助成する場合は、家庭で出た生ごみをコンポストなどでたい肥化し、それを家庭菜園などで使ってもらおうようお願いしています。

各家庭で作った、たい肥は、元となる生ごみの種類によって成分が異なるので、特定の農作物を栽培するときにそれが適したものかわからないため、農家が各家庭から集めたたい肥を使うことは難しく、コンポストを利用するには、使い方にコツ（生ごみの入れる量を調整するなど）が必要で、適切に管理しないとウジ虫が湧いたり、腐った臭いが発生したりすることから、誰がコンポストを管理するのかといった課題もあります。

次に、ごみ箱の設置は、捨てる方が便利になる一方で、ルールを守らずに家庭ごみや事業ごみが捨てられたり、ごみが増えたり、ポイ捨てを増やす原因にもなるため、市では実施していません。

また、市内全域にはごみ収集ステーションの数が約2万1,300カ所（令和7年4月1日時点）あり、毎年増加傾向にあります。このため、限られた人員で市の職員がひとつひとつのコンポストやごみ箱の管理をすることは困難です。

市では、これからも各家庭におけるコンポストの活用を促進するほか、購入費用の一部を助成する取り組みについて、もっと多くの市民の皆さんに知ってもらうため、お店にチラシを設置してもらったり、広報紙や市のホームページでお知らせしていきます。

〔農業施設による体験学習について〕

農業の理解を深めるために体験学習をすることは良いことだと思います。

現在市内の複数の農家では、収穫体験などができるところがありますが、農家がそれぞれで行っているため、全てを把握できていない状況です。今後みなさんにご紹介できるように調べていきます。

〈みなさんからの提案〉

食品ロスの削減をします！

【行田中】

食品ロスの少ない先進的な取り組みを行っている八王子市など他市の取り組みを参考にして、船橋市でも冷蔵庫収納術の紹介や学校・公共施設等で食品ロスの講座や情報を伝えるパートナー講座の実施、食べきり協力店の募集、事業者によるフードドライブやフードバンクへの協力などの、食品ロスの削減に取り組めます。



〈市の回答〉 (資源循環課・保健体育課)

〔冷蔵庫収納術について〕

食品ロス削減のため冷蔵庫収納術は、ごみの減量及び資源化に関する啓発紙である「リサちゃんだよりプラス」(令和7年10月号)に掲載させていただきました。また、公民館・出張所の他、小学校・中学校・市立船橋高等学校の各学級に掲示できるよう配布しました。



「リサちゃんだよりプラス(令和7年10月号)」の二次元コード

〔パートナー講座について〕

食品ロスについて八王子市をはじめ、他の自治体の取り組みを調べ、とても参考になる提案でした。

八王子市の取り組みについて問い合わせ、パートナー講座の内容を確認したところ、船橋市で行っている環境学習*に近いものと分かりました。行田中学校においても、環境学習を取り入れてもらおうと食品ロスの理解がさらに進むことと思います。外部の方にお話しいただく以外にも、社会、理科、技術・家庭科、特別の教科道徳、総合的な学習の時間など授業の中で環境について考える場面があります。日常生活と関連させながら、理解を深めていけることを願っています。

(*環境学習について)

小学校や中学校の授業補助(学校への出前授業)や市民向けの出前講座において、ごみ減量と資源化について説明を行っています。その中で食品ロス削減に関する内容についても啓発を行っており、フードドライブについても紹介をしています。その他にも学校からの依頼により食品ロス削減に特化した授業補助も行っており、その授業補助からフードドライブの実施につながった小学校(例:令和6年度 宮本小学校)や、逆にフードド

ライブを実施した後に市役所と連携し、食品ロス削減に関するイベントを行ったりする中学校（例：令和7年度 湊中学校特別支援学級）もあります。今後も小学校・中学校と連携を図りながら環境学習を推進していきます。

〔事業者の取り組みについて（食べきり協力店やフードドライブ）〕

市では、ごみの減量及び資源化に取り組んでいる事業者を「ふな R 連携事業者」として認定しています。その認定項目の一つに「食品ロスの削減」があり、「小盛りメニューなど食べ切れる量の提供・持ち帰りの実施等による食べ切りの実施・食品ロスにかかる啓発や情報提供」など、食品ロスの削減に向けた取り組みを実施している事業者を認定しています。今後も食品ロスの削減に取り組んでもらえる事業者が増えるように、市 HP やイベントで周知を図っていきたくと考えています。

また、市ではフードドライブを2か所常設で行っている他、スーパーやコンビニでも約20店舗でフードドライブを常設で実施しています（フードバンクふなばし HP 参照）。年3回公民館等でフードドライブイベントを実施したり、イオンモール船橋で行っている食品ロス削減フェアで出張フードドライブを実施する等、フードドライブの周知を図っています。今後もフードドライブの実施や周知を図るとともに、寄付しやすい場所を増やす取り組みについても検討していきます。



「フードバンクふなばし」の HP
二次元コード



出前授業の様子

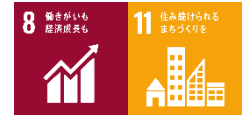


メグスパ（左）と資源循環課（右）で行われたフードドライブの様子

3.もっと住みよいまちに

〈みなさんからの提案〉

船橋市の北部を開発します！



【湊中】

市の南部には利便性の高い駅や大型の商業施設が集中し住みやすい地域となっているが、市の北部では、大型商業施設が少なく、交通の不便が目立ち、ガタガタした道やガードレールの無い歩道も多く見られるため、道路の整備、大型の商業施設と駅の建設、又その近くに集合住宅の建設など船橋市を住みやすいまちにするため、北部地域の開発を行います。

〈市の回答〉 (都市計画課・商工振興課・道路計画課)

〔北部地域のまちづくりについて〕

北部地域は大部分が農地や樹林が広がる自然豊かな地域となっています。特に農地については「農業振興地域」として農地を保全し、市民と農家の双方にとって魅力ある産業として持続的な発展を目指しています。

まちづくりのルール（都市計画）においても、この農地や樹林地は都市にあるべき貴重な自然環境であり、保全していくものとして考えています。

船橋市の都市計画では、この考え方に沿って、市街化区域（市街化していく区域）と市街化調整区域（市街化を抑制する区域）とに分け、無秩序な市街化を防止しています。そして、ご提案のあった北部地域の多くは市街化を抑制する市街化調整区域となっています。

一方で、北部地域において大きな道路の計画が進んでいます。これは北千葉道路という自動車専用道路で、この道路のインターチェンジが小室駅の近くに整備予定となっています。この北千葉道路は東京方面と成田空港を結ぶ重要な道路であることから、完成すれば人や物の流れが大きく変わり、北千葉道路沿線では地域の特性を踏まえながら、産業拠点形成に向けた取り組み（仕事が集まり、働く人が集まり、まちが元気になる場所を作ること）を進めていくことが必要です。これらのことから、北部地域は自然環境等に配慮しながら、今後の土地の利用方法をしっかりと検討していくべき地域であると考えています。

上記を踏まえ、市のまちづくりの方針である「船橋市都市計画マスタープラン」では、北千葉道路の整備による広域道路ネットワークを生かし、自然との調和を考慮しながら、新たな産業地の創出について検討することを掲げています。

また、市内には工場や物流倉庫などを建設するための産業用地が不足しているという課題があります。そのため、市内全体の工業地域を今後どのようにしていくかを考える必要があるため、船橋市商工業戦略プラン（令和 8（2026）～令和 17（2035）年度）に、北千葉道路の整備状況とあわせて、北部地域の土地利用も含めた検討を行っていくことを盛り込んでいます。

これらのことを踏まえて、市では北部地域の今後のまちづくりについて、企業立地の支援や農業に関する取り組みを担当する部署とも話し合いながら、自然や農地を守りつつ、新たな産業地の可能性について検討していきたいと思っています。みなさんからのご提案にあった大規模商業施設等の建設については、お住まいの皆さんや市にとって本当に望まれるものなのか、様々な方のご意見もお聞きしながら慎重に考えていく必要があると思います。

最後に、まちづくりには長い時間がかかり、その間も都市を取りまく状況は常に変化し続けています。今回のように、みなさんが住むまちがどうすればより良いまちになるのか、想像し考え続けることはまちづくりにおいて、とても大切なことです。また、市ではまちづくりに関する計画を策定するときなどに、住民の皆さんの声を聴く機会を設けていますので、ぜひまた、みなさんの声を聴かせてください。みなさんの想像力や行動力が未来の船橋をより魅力的なまちにすることを期待しています。

〔道路の整備について〕

市が管理している道路については、市内の渋滞緩和を目指し、都市の骨格を形成するための都市計画道路を優先して整備を行っており、併せて歩道の整備を行っています。道路を整備するには、道路となる用地を確保するために、土地所有者に協力していただく必要があります。整備には多くの費用と長い時間がかかり、すぐには出来ませんが、いただいた意見を参考にこれからの道路整備を行ってまいります。

〈みなさんからの提案〉

船橋市を涼しいまちにします！！



【法田中】

夏に涼む場所が少ないため、外遊びの時に日陰で涼めるように公園等の緑化を進め、学校、駅やバスターミナルなどにミストの設置を行うほか、環境に優しく長持ちするうちわを配布し、熱中症予防や市の熱中症対策の取り組みを紹介するなど、市民が暑い夏場でも快適に過ごせるまちを目指します。

〈市の回答〉 (公園緑地課・道路計画課・道路建設課・施設課・地域保健課・デジタル行政推進課)

〔公園の緑化について〕

公園の緑化は、都市部におけるヒートアイランド現象の緩和に大きな効果をもたらします。そのため、市では新たな公園用地の確保に努め、公園の整備にあたっては、日陰を作り出す樹木の植栽を行っています。さらに、今残されている貴重な樹林地についても保全することで、市全体の緑化の推進を行っていきます。

〔駅・バスターミナル・学校へのミスト設置〕

駅やバス停を管理している鉄道事業者及びバス事業者に対して、中学生の皆さんから「熱中症対策」に関する提案があったことを情報提供します。また、道路事業における熱中症対策としては、遮熱効果のある街路樹の植栽やヒートアイランド現象の抑制効果がある歩道の透水性舗装及び保水性ブロックの設置をしています。

なお、学校の校門へのミスト設置のご提案がありましたが、校門は学校に訪問する全ての人を通る場所ですので、ミストを浴びたい人、浴びたくない人、様々な意見があると思いますので、慎重な検討が必要となります。

学校施設での熱中症対策としましては、エアコンの整備がより効果的と考えています。特に、体育館へのエアコン設置は、こども未来会議室での皆さんの意見も取り入れた上で、近隣市に先駆けて実現した、船橋市の一大事業となりました。

現在では、全ての市立小学校、中学校、特別支援学校、高等学校で設置が完了しており、熱中症警戒アラートが発令されている中でも体育の授業や部活動が計画的に実施できるようになりました。

また、体育館は災害時の避難所や選挙の投票所などにも使用されるため、市民からも大変喜ばれています。

これからも皆さんが安全、安心、快適に学校生活を送ることができるよう計画的に施設整備を進めていきます。

〔熱中症対策の啓発について〕

市では、市民の方に対して、毎年市のホームページや広報で早期から熱中症予防の注意喚起を実施しています。また、民生委員児童委員を通じて地域住民や、包括連携協定を活用した企業の取引先及び、イベント参加者等に対しチラシを配布するほか、「ふなばし CITYNEWS」での呼びかけ等、毎年方法を変えながら幅広い年代に啓発を実施しています。各保健センターでは、健康講座や地区健康教育の際に熱中症予防の講話を実施しています。うちの配布については、配布した後に継続して使ってもらえるか等の課題もあり、直ぐにごみにならないような工夫等、慎重な検討が必要となります。今後もポスターの掲示やチラシの配布に加え、X や市公式アプリ*等の情報発信ツールも活用し、熱中症対策の周知啓発を継続して実施していきます。

〔*市公式アプリ（スマートライフパス）について〕

防災、子育て、観光などの情報を一つにまとめ、知りたい情報の分類を選択することで、必要な情報をプッシュ通知で受け取ることができるアプリです。利用者からのご意見やご要望を反映しながら、機能の拡大や情報発信力の強化を図っていきます。



市公式アプリ紹介ページの二次元コード

〈みなさんからの提案〉

若者の意見を吸い上げるための意見箱を設置します！



【芝山中】

幅広い若者世代の意見を吸い上げ、世代ごとに生じる課題を把握し解決していくことが必要なため、利用客の多い駅や施設等に意見箱を設置して意見を募ります。また、寄せられた意見について、市長と懇談する機会を設け、その結果を公表するなど、若者世代に市の取り組みを知ってもらい、市政を身近に感じてもらうことで、市の活性化につなげます。

〈市の回答〉 (こども政策課・市民の声を聞く課)

ご提案いただいた中学生の皆さんの意見を含め、「幅広い若者世代の意見を吸い上げる」ことについては、こどもから高齢者まで住みやすいまちづくりのためにも非常に重要であると考えています。

市では令和7年12月11日より、「こどもまんなか意見箱(仮)」を市ホームページ内に公開しました。この意見箱は、市内の公立小中学校・特別支援学校の皆さんが持つ学習用端末からアクセスすることもでき、こどもや若者の皆さんからの意見を積極的に聞きたい意見聴取(パブリック・コメント)やアンケートなどを案内するほか、市に対して自由に意見を伝えられる「こども・若者ポスト」を設置しています。幅広い若者世代の意見を集めるものとなりますので、ぜひご活用ください。



「こどもまんなか意見箱(仮)」の
市HP二次元コード

この他にも、市政全般に関する意見を受け付ける「市政ポスト」を市役所や図書館、公民館等に設置しているほか、インターネット上で意見を受け付ける「電子ポスト」、市民団体等と市長が直接意見交換を行う「まちづくり懇談会」、市民がスマホやパソコンでアンケートに答えて市政に意見を届ける「eモニター制度」といった、幅広い世代の声を聞く取り組みを行っています。

今後はこうした既存の取り組みについて若い世代にもより参加しやすく、意見を届けやすい形となるように、周知方法や運営の工夫に取り組んでいきます。

〈みなさんからの提案〉

治安の悪い夜の駅周辺を夜間監視 AI ドローンで監視します！



【飯山満中】

夜間における駅前での路上飲酒・喫煙により、トラブルや受動喫煙のリスクが高まり治安の悪化が懸念されることから、人手を増やさずに、効率良く監視できるシステムとして、夜間監視 AI ドローンを導入し、犯罪の抑止力を高め、迷惑行為を少しでも減らし駅前の治安維持を目指していきます。

〈市の回答〉 (市民安全推進課・クリーン推進課)

〔AI ドローンについて〕

駅前の夜間における路上飲酒などの迷惑行為を防止するために AI ドローンを活用して監視を行うという発想は、非常に先進的であり、今後の防犯対策の可能性を広げる興味深いアイデアだと受け止めました。

現在、市では、船橋駅周辺に防犯カメラを設置し、警察と連携して地域の安全を見守る取り組みを行っています。防犯カメラは、犯罪の抑止や事件発生時の映像による犯人逮捕などに効果を発揮しており、ドローンのように空から見守る仕組みと目的は共通する部分があります。

ドローンを夜間に飛行させる場合には、いくつか法的な制限があり、それらをクリアする必要がありますので、すぐに「駅前にドローンを常時飛行させて監視を行う」ことは、法令上等の観点から難しい状況であります。

しかし、AI 技術を活用した防犯対策という発想は非常に有意義であり、例えば、他自治体では、防犯カメラの映像を AI で解析し、異常行動を自動検知する AI カメラの導入が進められています。

ご提案いただいた内容は警察とも共有し、今後も引き続き、安全で安心なまちづくりを進めていきます。

〔駅前の路上喫煙について〕

市では、「船橋市路上喫煙及びポイ捨て防止条例」を制定しています。この条例では、市内全域の公共の場所（道路や公園など）でポイ捨てをしないこと、喫煙をしないよう努めなければならないことを決めています。

また、J R 船橋駅・西船橋駅・津田沼駅北口周辺地域を重点区域に指定し、この重点区域では路上喫煙やポイ捨てを禁止しています。条例に基づいた対策とし



「船橋市路上喫煙及びポイ捨て防止条例」の市 HP 二次元コード

て、市では平日（日中を中心に朝夕の時間帯も）や、土曜・日曜に巡視員によるパトロールを市内全域で実施しています。違反者を見つけた場合は、重点区域では直ちに過料（2,000円）を科し、重点区域以外では勧告（注意）しています。

また、ポイ捨てをしないように注意する掲示物（路面シートや看板など）を各所に設置するなどしており、これからも路上喫煙はいけないことだという取り組みを続け、路上喫煙する人を減らしていきたいと考えています。

〈みなさんからの提案〉

災害時のための活動を通して地域を活性化します！



【高根中】

災害時のための活動として、学校だけでなく、公民館等でもベルマークの回収を行い、集計作業等を地域住民で行うことで、仲良くなり災害時に助けあえる関係性を築きます。また集めたベルマークで交換した家具転倒防止金具や宇宙食等の食料品を用いて、地域の小中学校にて1日1泊の避難訓練を実施するほか、防災用品の使用法の講習会を行うなど、地域の防災力を高めていきます。

〈市の回答〉 (危機管理課・指導課・中央公民館)

〔防災力向上について〕

公民館等で地域住民がベルマークの回収や集計作業を通して、関係性を築くことは、地域の防災力向上の取り組みとして、とても有効だと思えます。

現在ベルマーク事業では、家具転倒防止金具や宇宙食等への交換は行っていないようですが、転倒防止金具のような防災グッズは、「災害時も自宅で安全に生活を継続することにつながる」とから、とても良い着眼点だと思えます。市でも、介護認定を受けている高齢者や重度の障害者等のみの世帯へ、家具転倒防止器具設置費の助成を行うなど、各家庭での備えを呼びかけています。

また、水を使わずに食べることができる宇宙食は災害時にも役立つという視点はとても良いと思えます。現在、市では災害に備えて、アルファ化米などフリーズドライ等の食料を備蓄しています。宇宙食は普通のフリーズドライ食品と比べて高価で、また大量に購入する必要があることから市の備蓄品として購入することは難しいですが、宇宙食と同様に食べやすく賞味期限が長い備蓄食料が販売された場合には購入を検討したいと思います。

〔ベルマークの回収について〕

学校でのベルマークの回収については、学校のPTA活動の一環で取り組んでいる学校、回収を実施していない学校など学校によって取り組みが違います。各公民館は、空きスペースなどにベルマークの回収箱を設置し、収集に協力することは可能ですので、高根中学校で実現可能かどうかぜひ学校の先生に提案してみてください。



市で備蓄されているアルファ化されたお米

〔避難所での防災訓練について〕

実際に避難所に宿泊して防災訓練を行うことは、地域の防災力を向上させるためにとっても有効だと思います。会場となる施設の安全確保や、運営するための人員を確保すること等ができれば実施可能だと思います。既に一部の地域では、市民団体が主体となり、学校での宿泊訓練を行っているところもありますので、町会等からそのような相談があった場合は、実現できるかどうか一緒に考えていきたいと思っています。

また、市では賞味期限が近い備蓄食料品等を希望する町会等に提供し、防災訓練等で配布しています。今後も備蓄品の利活用や、まちづくり出前講座での啓発を行い、地域の皆様の防災力向上に寄与したいと思っています。



学校体育館で行われた宿泊訓練の様子
(パーティションと布を用いて、居住空間を確保しています。)

〈みなさんからの提案〉

防災をもっと身近に！防災スタンプラリーで楽しみながら備えるまちにします！！



【若松中】

防災の知識を学ぶチャンスが少ないことから、防災について知り、意識を高めるため、市の公式アプリ「ふなっぶ」を活用した楽しく防災施設や避難所等を回る防災スタンプラリーを実施するほか、地震や火災、台風などの災害体験を行うことで、楽しみながら学び、災害時に落ち着いて対応ができるようにします。

〈市の回答〉 (デジタル行政推進課・危機管理課)

〔防災スタンプラリーについて〕

市では「ふなっぶ」に代わる新しいアプリ「スマートライフパス」を導入し、現在運用しています。新しいアプリには「スタンプラリー」機能があることから、機能としてスタンプラリーを開催することは可能です。

スタンプラリー形式で防災施設を回ることによってポイントを付与するというご提案については、ご自身の近所をはじめとした市内の防災施設を知ることや、街を歩くことで、避難所までの安全な道を知りきっかけとして有効な手段であると考えられます。市としても、市民の方々に様々な形で防災に対して身近に感じてもらう取り組みは必要だと認識していますので、今回いただいたご提案も含め、今後市民の方の防災意識を向上する手段の一つとして考えていきます。

〔災害体験イベント〕

様々な災害体験や、防災グッズが当たる抽選の実施、防災認定証の配布を行う災害体験イベントの実施については、会場や運営人員の確保、防災グッズの購入費用などの課題もありますが、防災を身近に感じてもらう、有効な手段のひとつであると思います。

市では、総合防災訓練や防災フェアなどを実施し、市民の方に防災を身近に感じていただけるよう努めており、引き続き体験を通じて防災を学ぶことができる内容について、検討させていただきます。

平常時に災害を想定した体験をすることは、実災害時を考えると有効な取り組みだと考えます。市では、学校や地域で、地震や火災体験（煙中体験）を行う防災指導を実施し、多くの市民の方に参加していただいています。例年11月に実施している総合防災訓練でも、災害を想定した体験ができるように取り組んでいますので、ぜひ参加してみてください。

〈みなさんからの提案〉

避難場所となっている中学校で避難所体験を行います！



【坪井中】

平日の日中には、地元を離れて働いている人も多いことから、災害時に中学生が避難所の設営・運営をスムーズに行えるように、避難所体験をします。避難所体験では、中学生、高齢者、運営スタッフ等、それぞれの立場を体験したり、段ボールパーテーションの設置や避難者の誘導、物資の配付等を行い、災害に対する意識を身に付け、災害時に冷静に対応できるようにします。

〈市の回答〉 (危機管理課)

平日の日中に災害が発生した場合、多くの大人は仕事等で地域の外に出ているため、中学生のみなさんには地域の防災の担い手となっていただくことを期待しています。

そのため、中学生が避難所の運営や応急救護などを体験することは大変重要な取り組みであると考えます。

総合防災訓練は全ての中学校が会場となっていますので、今後、学校とも相談して中学生の参加について検討していきます。



学校で行われた総合防災訓練の様子

〈みなさんからの提案〉

世代をつなげるスポーツイベントを開催します！



【小室中】

公民館事業で世代間交流のできるスポーツイベントを開催し、幅広い世代が楽しく交流できるスポーツ（ポッチャ等）を行い、運動するきっかけを作り、運動不足の解消につなげ、年代を問わず多くの人と関わりを持つことができるようにします。また、スポーツイベントにより、地域の仲が深まることで、防犯面の強化や災害時の共助が行えるようにします。

〈市の回答〉 （中央公民館・生涯スポーツ課）

公民館では、ウォーキング、ユニバーサルスポーツ、ポッチャなどを通じてスポーツ活動や世代間の交流につながる事業を実施しています。

今回、提案いただいた「囲碁ボール」など、引き続き次年度以降も各館で幅広い世代の方にスポーツを楽しんでいただけるような事業を企画検討し、実施していきます。

なお、市では、障害の有無や年齢・性別に関係なく、誰もが楽しめるスポーツとしてパラスポーツの普及に取り組んでおり、その一環として、パラスポーツの一つである「ポッチャ」の交流大会を、船橋市内の5ブロック（東部・西部・南部・北部・中部）および中央大会（決勝）を毎年開催しています。

本事業は2023年から船橋市スポーツ推進委員協議会主催、市教育委員会が共催として運営しており、小さなお子様からご高齢の方まで、幅広い世代の方々が参加する地域に根ざした大会として発展しています。

今後も、多くの方々がご参加いただけるように、周知に努めていきます。

また、地域の交流を深めたり、コミュニティーづくりに役立てたりするために、地区自治会連絡協議会等が行うスポーツイベントに対して補助金を交付して、市民にスポーツを体験できる場を増やす支援を行っています。



市で行われたポッチャ交流大会の様子

4.船橋をもっと盛り上げよう

〈みなさんからの提案〉

船橋アプリで船橋の魅力を伝えます！



【葛飾中】

船橋市の魅力が伝わっていないと感じたため、誰でも簡単に見ることができる船橋アプリをつくり、船橋市の特産品の宣伝、地域活性化の取り組み、突発的な学校の休校連絡などができるようにします。また、ふなっしーと特産物が描かれたシール(ふなっしーる)を作成し、特産物の販売店等に設置し、ポイントを付与し、溜まったポイントは買い物で利用できるようにするなど、地域の活性化に繋がります。

【旭中】

船橋市の名所や遊び場などの情報がごちゃごちゃで調べるにもサイトがいろいろあり、結局決まった場所でしか遊ばなくなっていることから、自分の住んでいる地域の魅力を伝えるため、飲食店や遊び場、名所などをジャンルごとにマップとレビューで見られるように、船橋アプリ“ふなっぶ”を改良し、船橋の魅力を高め、お店や施設の集客につなげます。

〈市の回答〉 (農水産課・商工振興課・デジタル行政推進課・保健体育課)

〔市公式アプリでの特産品の広報とふなっしーるの導入について〕

船橋市には市公式アプリ「スマートライフパス」があり、船橋にんじんなどの特産物やソースラーメンなどの情報を発信しています。今後も引き続きスマートライフパスを活用しPRをしていきます。

スマートライフパスには市民の皆さん（アプリの利用者）に対する「市からのお知らせ」機能があることから、船橋市の観光地や特産物をPRすることも可能です。

市民のみなさまに喜んでいただける何かを提供できるよう、事業者と協議を続けていきます。

また、実際にふなっしーるが制作された場合は、市内の商店会や観光施設へ、活用協力の依頼をすることはできると考えます。



特産品として紹介しているソースラーメン（左）と船橋にんじん（右）

〔市公式アプリへのマップ機能と投稿機能の導入について〕

市公式アプリ「スマートライフパス」には将来的にマップ機能を搭載する予定ですが、投稿の機能はまだありません。いただいたご意見は、アプリの開発を担当する事業者、アプリの運営を担当する事業者と、今後への展望として共有させていただきます。

〔学校からの休校連絡について〕

スマートライフパスでは市役所から市民のみなさまに情報をお知らせする機能を備えておりますが、お知らせ内容を即時に反映させることが機能的に難しい仕組みとなっています。このため、前日などに急きょ決定する臨時休校のお知らせには対応が難しい状況です。

市教育委員会では、「ふなばし情報メール（メール、LINE、X）」と「市ホームページ」で気象警報発表時に臨時休業情報を配信しています。「ふなばし情報メール」では、臨時休業情報の他に船橋市に関する様々な情報を配信していますので、ぜひ登録して利用してみてください。また、みなさんの家族やお友だちにも紹介してください。

〈みなさんからの提案〉

特産品で船橋市をより魅力的なまちにします！



【御滝中】

船橋市のブランド化している特産品を知ってもらうため、特産品の種まきから収穫を体験できるイベントや、小中学校の授業において、家庭科での特産品を使用したレシピ作り、社会科で特産品のポップ作り等を行い、地域のスーパー等でポップの展示することで特産品の認知度をアップさせ、多くの人に船橋市の特産品を知ってもらうことで、市民として誇れるまちにします。

【前原中】

船橋市の魅力や特産品を知ってもらうフェア「ふ・なばし（784）フェア」を開催します。フェアでは特産品や特産品を使用した料理の販売、袋詰めチャレンジ等を784円で行うほか、フェアで行うスタンプラリー達成者には、284円のクーポンを配付し、500円（ワンコイン）で購入できるように、市民全員に船橋市の特選品を知ってもらい、日常的に特産品を食べる都市にします。

〈市の回答〉 （農水産課・指導課）

〔特産品の広報・体験学習について〕

船橋にんじんや小松菜などの認知度を高めるためには、良いご提案だと思います。協力してくれる生産者を含め、農業協同組合などの関係機関と実現可能か話し合っていきたいと思います。

また、ご提案いただいた体験活動についてですが、現在小学校では、3年生の社会科「わたしたちの船橋」で、市のブランド野菜であるにんじんなどを学習しています。学習後には校外学習で、船橋市農業センターに行き、市でつくられている野菜や収穫などの体験をしている学校もあります。一方、中学校の校外学習で、船橋の農業体験を実施しているところはありません。学校によって校外学習の目的なども違うため、体験活動等の内容を指定することは難しいですが、修学旅行や校外学習で実施される体験活動の事前学習の際に、船橋市と比較するなど船橋市についても学ぶ機会をもつことができるよう学校に紹介していきます。

〔授業でのレシピ・ポップ作りについて〕

地域で生産される食材や地産地消については家庭科の授業で学習しています。ご提案いただいた家庭科の授業でのレシピ作りはとてもワクワクするアイデアです。レシピ作りまでは実施している学校も多いと思いますので、レシピの活用方法については、まずは学校内で検討してみたいかが

でしょうか。地域の飲食店などの協力も必要になるかと思いますが、学校の先生にぜひ相談してみてください。

社会科でのポップ作りに関してですが、まず小学校では、3年生で生産や販売の仕事を学習しています。近隣の生産者やスーパーマーケットの見学等を行うことがあるため、見学先と連携して「自分たちのまちの特産品」を知る学習活動の一環として「ポップ作り」を行うことも考えられます。中学校では、2年生で地域の在り方を学習します。今回の提案は地域の実態や課題解決の取り組みの一つとして考えられますので、学校への訪問指導や研修の機会に学習活動の方法として紹介していきます。

〔ふ・なばしフェアについて〕

船橋の農業・漁業の魅力を知ってもらうために農水産祭を実施しています。

提案してもらっている語呂合わせの価格設定などは行っていないですが、リーズナブルな価格で船橋市の特産品を販売しています。まずはぜひ来て、見て、食べるなどフェアを体験してください。



今年度行われた農水産祭の様子

〈みなさんからの提案〉

アンデルセン公園の魅力をさらに高めます！



【豊富中】

アンデルセン公園の冬季イルミネーションを復活させ、北部地区の活性化を目指します。冬季のイルミネーションには、集客力があることから、広告や宣伝を見直し、遠方からの来場者だけでなく、地域の人も訪れたいくなるような工夫をしていきます。

【千葉日本大学第一中】

アンデルセン公園を利用し、その近くにホテルなどを設置し、リゾート化させます。例えば、公園を活かした結婚式場を作ったり、大人向けのワークショップなど体験イベントの実施のほか、SNS等より活用し、イベントとスケジュールを拡散し若者世代の来場者を増やしていきます。

〈市の回答〉 (公園緑地課)

〔イルミネーションの導入について〕

イルミネーションイベントについて公園の管理者と協議いたしましたが、イルミネーションは、夜の開催になるため、園内を安全に歩き回れるよう、照明の設置や安全対策などの課題があり、現状では開催は難しい状況ですが、その代わりに、イルミネーションとは違う楽しみ方にはなりますが、おいしい食べ物や可愛い雑貨をそろえた「クリスマスマーケット」を開催し、クリスマスの雰囲気皆さんに楽しんでいただけるようにしていきます。

〔式場の導入や体験イベントについて〕

アンデルセン公園は、姉妹都市であるデンマーク・オーデンセ市の協力を得て、アンデルセン童話をテーマにした都市公園*であることから、結婚式場の導入は難しいですが、結婚式の前撮り撮影としてアンデルセン公園を利用していただいている方もいらっしゃるので、今後、スポット的な撮影場所を増やす事ができないか、また、大人向けの体験イベントの導入についても、来園者からの要望や平日の有効活用として公園管理者と協議・検討していきます。

〔*都市公園について〕

都市公園とは、国や市などの自治体が都市公園法に基づいて都市計画区域内に設置した公園です。

また、子供からお年寄りまでの幅広い年齢層の人たちのレクリエーションの空間となるほか、都市景観の向上、環境の改善、防災の拠点、生物多様性の確保など多様な機能を有する公共の空間です。

〔SNS での広報について〕

イベント開催スケジュールについては、現在、SNS で発信しており、市の公式 X や Facebook などでも、アンデルセン公園のイベントや草花で彩られた園内を積極的に配信していますので、ぜひ見てください。

また、四季折々の草花を背景としたフォトスポットの設置やフォトコンテストの開催については、公園管理者と協議し、実現できるか検討していきます。

〈みなさんからの提案〉

船橋市を有名にします！



【三田中】

市内にたくさんある神社を巡りながら船橋市の食材を楽しむことができるようなクイズラリーを開催します。クイズラリーでは、小中学生が作った船橋市に関するクイズを各神社に配置し、問題を解きながら、同時に船橋の食材についても知ってもらうようにすることで、船橋市のたくさんの神社や特産品を多くの人にもっと知ってもらえるようにします。

〈市の回答〉 (文化課)

市では、平成30年度のこども未来会議室の提案を受けて、コロナ禍後の令和4年度より市内の文化関連のスポットを巡るフォトラリーを開始しました。令和6年度からは、一部の神社も含め、各地域の歴史や文化財にちなんだスポットを巡るクイズラリーにリニューアルし、年度ごとに対象地域を変えながら実施しています（令和7年度は飯山満地域）。

食材も組み合わせて実施することについては、文化財の所在と食材の生産地や飲食店の場所は必ずしも一致しないことや、各スポットで食材を楽しんでもらうためには、文化財の管理者に加え、生産者や飲食店など多くの関係者の協力が必要となることから、現在のところ実施は難しいと考えています。

しかし、今回ご提案のあったように、文化財に加え地域の魅力を併せて発信することは大変面白く、素晴らしいアイデアだと思いますので、今後の参考とさせていただきます。



今年開催されたクイズラリーのチラシ(左)と景品の缶バッジ(右)

〈みなさんからの提案〉

新たなご当地スイーツを有名にします！



【古和釜中】

船橋市の特産品である梨を使ったご当地スイーツのレシピやアイデアを募集し、採用する「梨グルメコンテスト」のようなイベントを開催し、船橋市の特産品を使ったスイーツを商品化し、ホームページ、SNS、市民まつりやイベントでのPR活動などを行い、市民に長年愛される、身近なご当地スイーツとなるように広めていきます。

〈市の回答〉 (農水産課)

船橋は梨そのものの味・形などを競う「なし味自慢コンテスト」を毎年実施しています。

しかし、スイーツに限ったコンテストはしたことがないので、実施についてはコンテストを実施している船橋市果樹園芸組合と相談いたします。梨のスイーツが完成した際には、市を代表するものになるように、市のホームページやイベントなど様々な方法でPRしていきます。

〔なし味自慢コンテストについて〕

このコンテストは、市内のなし生産者が自慢の梨を出品し、農業センターを会場に千葉県や農業協同組合などの審査員が甘さや見た目の審査を行い、上位6点は消費者も参加して味の審査を行い船橋で一番優れた梨を決定するものです。令和7年度は8月29日に出品点数88点(品種：豊水)で実施しました。

また、船橋市長賞をはじめ各賞を受賞した梨は、8月30日(土)と31日(日)に、イオンモール船橋で展示を行いました。

なお、味自慢コンテストの当日には、市内福祉施設へ船橋自慢の梨を寄付し、これに先立ち8月27日(水)に市役所で贈呈式を行いました。

「なし味自慢コンテスト」は、平成14年に始まり、今年で24回目の開催です。「船橋の梨」の生産者にとって、このコンテストで受賞することは、たいへん名誉なことで、生産者の高い意欲を支える機会の一つとなっています。

〔第24回「なし味自慢コンテスト」開催内容〕

日時: 令和7年8月29日(金) 午前9時から審査開始 会場: 農業センター

内容: 1次審査→糖度(甘さ)審査(平均糖度以上のものを選出)

2次審査→外観(見た目)審査(27点を選出。特別賞11点、優秀賞16点)

3次審査→食味審査(上位6点を選出し、実際に食べ比べて順位を決定)

審査員: 審査長(千葉県東葛飾農業事務所1人)

審査員(千葉県東葛飾農業事務所・船橋市農業センター・JAいちかわ・長印船橋青果(株)各1人)

※食味審査には消費者モニター(3名)が審査員として参加

〔なし味自慢コンテスト審査及び展示状況〕



図1: 糖度審査の様子

図2: 外観審査の様子

図3: 糖度及び外観審査による並替え

図4: 食味審査の様子(上位6点)



左図5: イオンモール船橋店での
受賞梨展示状況

〈みなさんからの提案〉



市民に船橋を知ってもらう工夫を増やします！

【宮本中】

市役所に貝塚等の文化的施設を展示するミニ博物館を作り、市役所に用事がある人を中心に幅広い世代が訪れてもらいます。また、市が YouTube や SNS で公開している動画や情報を市民がより興味を持てるようにしたり、市公式 SNS アカウントのアイコンを改良し、より船橋を知ってもらえようにします。

〈市の回答〉 (郷土資料館・広報課)

〔ミニ博物館の設置について〕

博物館の設置場所として提案されている市役所本庁舎が、市の歴史や文化財に関する情報を効果的に発信できる場所であることは、郷土資料館が令和元年度に市役所本庁舎 1 階の美術コーナーで開催した展示への反響からも理解しています。ただし、市として市民に発信したい情報は歴史以外にもあるため、ミニ博物館の常置は難しいです。市では、出張所を併設した公民館やスポーツイベント等でも展示を実施しているところですが、提案を踏まえて、今後も博物館外での効果的な展示の場所および時期を検討していきます。

〔SNS でのアイコン・広報について〕

SNS のアイコンについてのご提案ですが、現在、市の SNS アイコンには「市章」を使用しています。市章とは、船橋市を表す公式なマークのことで、このマークを使うことで、「これは船橋市からの正式な情報です」ということが、皆さんにすぐわかるようになっています。また、どの SNS を見ても同じマークがあることで、安心して情報を受け取ることができるなどの理由から、市章をアイコンに使用しています。より多くの人に親しみを持ってもらえるよう、YouTube や X などのトップページで、イラストを変えたり文字の大きさを変更したりするなどデザインを変更していきます。

また、市内の魅力あるスポットや名産品などの PR については、JCOM チャンネルおよび YouTube で公開している市広報番組「ふなばし CITYNEWS」で紹介したり、船橋産の食材を使用した店を Instagram で紹介したりするなど、市内外に向けて発信しています。YouTube ショートでも、船橋ゆかりのスポーツ選手などの動画を投稿しています。今後も、おすすめスポットなど市の魅力につながるものを積極的に PR していくとともに、ショート動画での投稿数を増やしていきます。ぜひ、見てください！

5.学校（学習）の改善



〈みなさんからの提案〉

無料の自習室を設置します！

【海神中】

無料で学生から大人の人たちが気軽に勉強ができる自習室をショッピングモールや公共施設に設置し、勉強したいと思う人を増やし、船橋市全体の学力を向上させます。また、アプリで自習室の場所や空き状況が確認できるようにし、利用しやすい環境を整えるほか、設置費用を募金箱で集め、集めたお金を建設費に充てることで、船橋市の負担を減らします。

〈市の回答〉（西図書館・中央公民館・指導課・財産管理課・地域子育て支援課・商工振興課）

〔公共施設における自習室について〕

（実施している場所）

○図書館

市内4か所の図書館では学習コーナーや多目的室を事業等での利用がない場合に学習スペースとして開放する等、社会人や学生が無料で学習できるスペースをご用意しています。なお、西図書館では令和7年10月から多目的室を学習スペースに臨時開放する際に西図書館公式 Instagram にてお知らせするサービスをはじめました。

○公民館

公民館では、フリースペース等を活用して自習スペースを提供しています。また、高根台公民館では、当日の空いている部屋を勉強部屋として開放する事業を実施しています。

多くの方に公民館について知っていただき、また利用しやすいと感じていただけるよう情報発信を工夫、検討していきます。

○児童ホーム

児童ホームの図書室や多目的室の一部に、学習スペースを設置しています。

多くの方に学習スペースがあることを知っていただけるよう、今後も広くお知らせをしていきます。

(実施していない場所)

○学校

学校に自習室を設置することについては、自習室を管理する職員の負担や不足、自習室として活用できるスペースがない学校があることなどから校舎内に自習室を設けることは難しいです。しかしながら、放課後に使える公共施設などで、勉強できる場所については、今後、学校や関係部署と一緒に考えていきたいと思えます。

○市役所

市役所（本庁舎）は、市民の方の窓口スペース、各課の執務スペース、会議室等として利用されていますが、全体的にスペースの余裕がなく、いつでも利用できる自習室の設置ができません。

ご提案の実現に至らず、申し訳ありませんが、市役所（本庁舎）では、手続きなどで来庁された市民の皆さんが利用しやすい環境の整備を進めていきます。

〔商業施設における自習室について〕

商業施設への学習スペースについては、事業者が判断することではありますが、中学生の皆さんからの提案を事業者伝えていきたいと思えます。

〈みなさんからの提案〉



熱中症対策として中学校に自動販売機を設置します！

【大穴中】

年々平均気温が上昇し、持参した水筒の中身がすぐに無くなってしまふことから、熱中症対策の一環として水やお茶等が購入出来る自動販売機を設置します。また、現金の持ち込みによるトラブルを防ぐため、最適なルールを制定するほか、生徒手帳裏に貼り付けた専用の二次元コードで購入出来るようにし、使用履歴が保護者も把握できるようにしていきます。

〈市の回答〉 (指導課)

学校では、すべての生徒が安全で公平に水分補給できることが重要であると考えます。提案にあった2次元コードで飲料を購入し、保護者のスマートフォンで決済する方法は、斬新なアイデアだと思います。ただし、この方法は各家庭の同意が必要になるため、一部の生徒が自動販売機を利用できない可能性があります。学校に導入する設備はすべての生徒が公平に利用できるものである必要があります。そのため、すべての生徒が公平に利用できるようにするには、どのようにすればよいか検討する必要があります。

また、自動販売機の利用時間や混雑への配慮も大切です。休み時間等に利用が集中すると、周辺が混雑しやすくなります。そのため、安全面を考慮した利用ルール作りも必要であると考えます。

その他にも自動販売機の設置費用や機械の維持管理、定期的な点検や故障時の応急対応など運用上の課題もあります。

以上の点から考えると、学校に自動販売機を設置することは難しいと考えますが、今後の学校環境を考える際の参考とさせていただきます。

なお、昨年度から、市では学習環境における熱中症対策の一環として、暑さからみなさんの命を守るために市内公立小中学校の体育館へ、エアコン設置を行っています。水分補給への現状の対策としては、水筒を大きいものにするとか、複数本用意するなど、各ご家庭から持参するようご協力をお願いします。

〈みなさんからの提案〉

みんなが学ぶ機会を得られるまちにします！



【県立夏見特別支援学校】

学校に行きたくても行けない人たちが学べる機会を作るために、生活リズムの改善も考慮したライブ配信型のオンライン授業、人の視線を感じにくく集中できるように仕切りを活用した個別の自習環境の導入、生活や職業に関する体験授業を行うことで、他人と協力することや自分の得意なものが発見出来るようにしたり、相談しやすい環境をつくるなど、とてもいい安心できる場所をつくります。

〈市の回答〉 (指導課)

〔オンライン授業について〕

市の学校では、一人一台端末（小学校はタブレット型、中学校はノートパソコン）が配布されており、希望する児童生徒はその端末を活用してリアルタイムで授業を配信し、授業に参加できるようにしています。

〔個別の自習室について〕

市では校内教育支援センターを全校に設置し、教室運営を担当する教員や見守り等を担当するスクールアシスタントを配置しています。校内教育支援センターは、通常の教室に入りづらい児童生徒が落ち着いた場所で自分に合ったペースで過ごせる場所となっていて、一人一人の特性や能力、興味や関心に応じた柔軟な学習を行うことができます。学校によってはパーテーションを設置して、個別に学習できる環境を整えている学校もあります。このような校内教育支援センターの運用の仕方を各学校にも紹介していきたいと思います。

〔体験活動について〕

市は各学校に対して様々な体験活動を提供しています。スポーツ分野では、「千葉ジェッツふなばし」のバスケットボール特別授業や、「クボタスピアーズ船橋・東京ベイ」のラグビー（タグラグビー*）教室を実施しています。文化的体験学習については、船橋市文化活動普及事業の一環として、市内の学校に芸術家等を派遣し、出前授業を行っています。職場体験に関しては、職場体験受入企業の一覧を各学校に共有するなど、学校の取り組みを支援しています。また、学校に登校することが難しい子供たちのための体験活動としてふれあいキャンプがあったり、総合教育センターで相談を受けている子供たちが通室しているサポートルームでもスポーツ体験や調理体験、博物館見学などをしたりしています。

今後も利用する子どもたちの意見を聞いて、更に安心して学べる環境が整うように取り組んでいきます。

(*タグラグビー：タックルの代わりに腰に付けた「タグ」を取ることでプレーする接触のないラグビーのこと。)

〈みなさんからの提案〉

給食で環境に優しいストローを導入します！

【二宮中】

環境問題から船橋市内の小中学校では、給食の牛乳を飲む際のストローレス化が始まりましたが、二宮中では、飲みづらい等の理由から半数以上の人がストローを使用していることから、植物由来性の海中や土壌で生分解される環境に優しいストローを導入します。



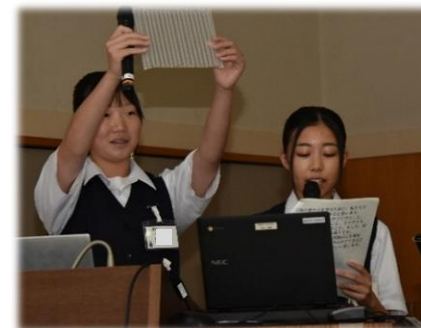
〈市の回答〉 (保健体育課)

この度は、環境に配慮したストローの導入についてご提案いただくとともに、企業からとりよせた実物のストローをご提供いただき、ありがとうございました。学校給食の飲用牛乳のストローをなくし、二酸化炭素の排出量を削減すること等を目指した令和4年度と6年度のこども未来会議室での提案を受け、船橋市の小中学校では、身近で関心の高い学校給食を環境学習・環境教育の実践の場とし、令和7年4月から、ストローを使わずに学校給食の牛乳を飲むことに取り組むことを開始しました。ただし、牛乳パックの形状が学校により異なること、また、児童生徒等の状況によりストローを必要とする場合があることなどを踏まえ、状況に応じて取り組むこととしています。

石油製品のストローは、製造時と焼却時に多くの二酸化炭素を排出しますが、貴校の提案は、植物原料であり、生分解性のあるストローについてのものでしたので、非常に興味深く読ませていただきました。早速、教育委員会でも、メーカー担当者に問い合わせ、ストローの原料が植物由来であり、3か月間（13～14週間）程度の海水・土壌での保管によりストローが生分解されることを教えていただきました。13週間分、約65回の給食で使用するストローを生分解させるための用地等については、ストローを導入した自治体の中でも検討が進んでおらず、ストローを焼却している学校がほとんどのようです。

また、ストローの費用面についてですが、現在、市内の学校給食のストローは牛乳納入業者が費用負担しています。今回提案のあったストローの環境的意義と、その価格を牛乳納入業者に伝えたところ、意義については理解されましたが、ストローの注文をすぐ変更できる価格ではないとの回答がありました。

今回の提案については、生分解のための用地等およびストローの購入費用負担について課題がありますが、牛乳納入業者へ牛乳パックおよびストローの仕様変更を要望し、学校給食が環境学習・環境教育の実践の場となるよう努めていきます。



発表時に紹介された生分解性ストロー

〈みなさんからの提案〉

市内の小中学校に折りたたみヘルメットを導入します！



【七林中】

通常のヘルメットに比べ耐用年数が長く、かさばらず、椅子にかけて収納できる折り畳みヘルメットを船橋市内全小中学校に導入し、万が一に備え、素早い避難行動が出来るようにします。

〈市の回答〉 (学務課)

地震の時に生徒皆さんの安全を守るように、折りたたみヘルメットを用意するという提案ありがとうございます。

今後、「折りたたみヘルメットが必要かどうか」、「導入された場合はどのように保管するか」などを市内の小・中学校に確認し、その結果を受けて、どのように導入・運用するかを検討していきます。

〈みなさんからの提案〉

給食の食券をデジタル化します！



【三山中】

現在、給食時の食券を目視確認するため、給食の配膳までに時間がかかり喫食時間が短いことから、食券をデジタル化し、楽しい給食時間を確保し、生徒だけでなく先生の給食時間も確保します。

〈市の回答〉 (保健体育課)

食券受け取りによる、給食の喫食時間の不足、食物アレルギーの見落としなどについてのご意見等がありましたので、学校への問い合わせを行うとともに、ランチルームを訪問し現状の確認を行いました。

食券担当の先生は、A・B各1名で担当が決まっており、生徒は以下の(1)～(3)の3つについて確認を受け、(3)の該当者以外は、食券担当の先生に食券を渡し、給食を受け取った後、席につき、喫食を開始していました。

- (1) 食券の日付が当日であること
- (2) A・Bに間違いが無いこと
- (3) 目立つ色の蛍光ペンで着色のある食券を持つ生徒が、おかわりを希望する場合、(1)(2)の確認後、その食券を本人に返却すること(食物アレルギーの生徒への、おかわり希望時の対応)

食券担当の先生の前と後で、列に並ぶ生徒の間隔は特に変化がなく、食券担当の先生が目視確認が渋滞の原因となっている様子はありませんでした。また、食物アレルギーについては、前月までに詳細の確認を完了し、該当者には目立つように蛍光ペンで着色された食券を配付しており、おかわりの希望の有無だけを聞き取る方式にしているため、安全かつ速やかに確認ができるよう工夫がされていました。

給食の受け取り場所では列が混んでくる場面もありましたが、生徒・調理員が協力し、給食を安全で速やかに温かいまま受け取る様子が見られました。

教室・トイレ等に残っている生徒がいないか確認を終えた教員が列の最後に並び、席につきますが、12時50分を過ぎることは無く、喫食時間は長い生徒は30分、また短い生徒で15分以上確保されているとのことでした。ランチルームでは、和やかな雰囲気では会食が行われていました。

13時5分までには、全員が下膳することになっており、完食の生徒、残す生徒、さまざまな生徒がいましたが、各自が自身のスピードで喫食を終え、時間不足で食べ終わらない生徒が大勢いるようには感じられませんでした。

ご提案いただいた食券のデジタル化ですが、一人に対して大量の情報を判別する場合には、デジタル化のメリットが生かされ、よい提案であると思いましたが、現状では、A・B別に整列したうえで、先に述べた(1)～(3)のみの確認であるため、デジタル化を進める状況にないと判断いたします。しかし、学校におけるデジタル化推進の必要性がさまざまな場面で強調されていますので、今回のご提案を参考に、デジタル化について配慮していきます。

〈みなさんからの提案〉

使用する水を減らすため給食をワンプレートにします！



【高根台中】

給食のお皿が分かれており、枚数が増えるごとに洗う時の水量が増えていることから、給食をワンプレートにして、食器を洗う時の水の使用量を減らし環境問題を改善します。また、新しい食器を導入する際は、現在使用している食器を老人ホームや小学校で使用してもらうほか、新しい食器に生まれ変わらせる陶器リサイクルで丈夫なお皿にするなど、水資源を節約し、環境問題を改善していきます。

〈市の回答〉 (保健体育課)

水資源の節約について、身近な給食の中でできることが無いか話し合い、ご提案くださったことに感謝いたします。給食の食器・トレイの洗浄は、ぬるま湯と石けんを使用し、食器等の種類別に行っています。パン皿やトレイなどは汚れが少ないことが多いため、先に洗浄を終わらせます。一方、飯碗等ごはんを盛り付けた食器には、でんぷんの汚れが多くついているため、しばらくぬるま湯につけ置いた後、調理員の手作業で、水分を含んでやわらかくなったでんぷんの汚れをスポンジで軽くぬぐい、その後、食器洗浄機ですすぎ洗いをします。油汚れの多い食器は、でんぷん汚れよりやや高めのお湯に石けんを溶かし、調理員がスポンジを使用して食器に泡をつけ、泡と一緒に油汚れを落とす作業を行ったうえで、食器洗浄機ですすぎ洗いを行います。このように汚れの程度や種類を意識して洗浄することで、水・石けん・時間を節約することができます。

汁椀を別にしてプレート内に置くことのご提案でしたので、汁碗以外は一体になっており、汁碗を置くくぼみのついた、ワンプレート型の食器を想定されたものと考えます。ワンプレート型の食器の場合、さほど汚れていない部分と汚れのひどい部分がひとつの食器に混在し、でんぷん汚れと油汚れが混ざりあい、食器のくぼみも数か所になるため、食器の枚数が減った分、水の使用量が減少すると単純に言い切ることは難しい日が多くなると想像します。

また、新しい食器の導入にあたり、現状の食器のリサイクルについて調べられており、食器の活用についての配慮が素晴らしいと思いました。高齢者施設や小学校での使用を提案されましたが、残念ながら小学生には大きすぎるため、学校給食では使うことができません。また、食器を粉碎し新たに作り変えた際の食器の強度ですが、市で利用しているメーカーに確認したところ、必ず強度が向上するとは言えないとのことでした。ただ、普段みなさんが学校給食で使用している食器は、粉碎によるリサイクル原料を一部使用した食器であり、その事を把握されていたことに感心しました。ご提案を採用することはできませんが、水資源や食器について中学生のみなさんのご意見を伺えましたので、今後の参考とさせていただきます。

これまでに実現した主な提案

平成26年度に始まった「こども未来会議室」では、みなさんの先輩たちが、みなさんと同じように船橋をよくするための提案を真剣に考えてくれました。その提案は、これまでにいくつも実現しています。

自然を活かしたまちづくりをします。

市内の自然を活かした施設等、各所を巡る観光パスポートを導入し、スタンプラリーを行うことで、達成者に船えもんグッズ等を進呈し、市内施設を有名にするという提案から、「目利き番頭 船えもん」が令和7年8月4日に大番頭に昇進したことをきっかけとして、船えもんの市内おすすめスポットを巡るデジタルスタンプラリーを8月4日～9月30日の期間で開催しました。市内4か所のチェックポイントを全て巡った人に船えもんグッズをプレゼントしました。

第二回デジタルスタンプラリーも令和7年12月12日～令和8年1月31日の期間で開催されました。〔令和5年度提案 芝山中〕



海洋プラスチックや Co2 削減のためストローレス化を進めます。

学校給食の牛乳パックのストローレス化（ストローを使わずに飲むこと）で二酸化炭素削減を目指す提案がありました。この提案を受け、児童・生徒の環境問題についての学びと、プラスチック削減の取り組みを拡充するため、令和7年4月から全ての市立小・中学校の給食で提供している牛乳のストローレス化が実施されました。〔令和5年度提案 高根台中〕



音楽会で演奏に合わせた演劇を通して、詐欺被害防止の注意を促します！

「音楽会で演奏に合わせた演劇を通して詐欺被害の防止の注意を促したい。さまざまな年代が集まる音楽会であれば、詐欺の被害が増えている若い世代にも注意喚起ができる」という提案から船橋市交響吹奏楽団による演奏と二宮中学校の生徒6人による演劇のタイアップという形で「プロジェクト〈F〉～詐欺を撲滅せよ～」を開催されました。令和6年5月26日に船橋市民文化ホールで開催された船橋市交響吹奏楽団 第53回定期演奏会において実現されました。〔令和5年度提案 二宮中〕



学校の体育館にエアコンを設置します！

体育館にエアコンを設置することで、体育や部活動などの学校生活が快適になるうえ、学童や地域のイベント時など、さまざまな場面で熱中症予防になります。また、避難所となる体育館ですので、避難生活のことも考え、体育館にエアコンを設置したいという提案から、令和6年度に市内中学校と特別支援学校の体育館にエアコンの設置が実現されました。小学校の体育館については、令和7年度末までの設置完了を目指しています。〔平成28年度提案 法田中 ほか〕



船橋の知名度を動画による船橋映像コンテストでもっと有名にします！！

船橋の知名度をさらに上げるため、船橋映像コンテストを導入することで、多くのクリエイターからの様々な広報動画を集め、色々な動画で市の魅力発信を行うという提案から、「ふなばし動画&フォトコンテスト」を開催しました！「私のふなばし」をテーマに、動画や写真を通じて、船橋の魅力を発信することができました！〔令和5年度提案 三田中〕



千葉ジェッツふなばしとコラボして船橋を盛り上げます！（屋外イベント）

「誰でも気軽に遊びに来られて、船橋の魅力を詰め込んだスポーツワールドを実現させたい」「ジェッツをもっと多くの人に知ってもらいたい」という提案から、千葉ジェッツふなばしが快諾!!

「#This is Funabashi～中学生が創る未来へのSmile☺～」を2日間限定で開催をしました！

令和5年3月25・26日、浜町中央公園にバスケットゴールを設置し、気軽にバスケットボールに触れてもらうほか、ジェッツのアンテナショップやフォトブース等を設置し、多くの方が来場しました！〔令和3年度提案 行田中〕



千葉ジェッツふなばしとコラボして船橋を盛り上げます！（コラボ商品）

船橋産の梨を使った「船橋からのおもて梨まん」と、千葉ジェッツふなばしのキャプテン富樫勇樹選手の名前を盛り込み、船橋産のにんじんを使用した「勇樹ヤロットまん」を開発。令和3年3月24日のジェッツのホームゲームで300セットを限定販売し、大好評となりました！

〔令和元年度提案 坪井中〕



中学校を今よりグローバルな場にします！

日本語に不安を抱えている外国人のクラスメイトが、学校生活での不安を解消したり、生徒同士のコミュニケーションツールとして、市立小学校、中学校及び特別支援学校の全学校に、74言語に対応した音声翻訳機（ポケトーク）を導入しました。

〔令和元年度提案 坪井中〕



ポケトーク



ボール遊びができる公園をつくります！

公園でボール遊びがしたい！という提案から、近所の方や関係部署と話し合って遊び方のルールを決めるなど検討を重ね、現在、市内33の公園等でボール遊びができるようになりました。

今後も、ボール遊びができる公園等の整備を進めていきます。

〔平成26年度提案 行田中、古和釜中 ほか〕



「あったかほっかほか船橋」プロジェクトを実施します！

時間のある夏休み期間中にボランティア体験をしたいけれど、参加方法がわからない！という提案から、ボランティアを募集している団体や福祉施設等とマッチング会を行い、気軽にボランティアに参加できる「あったかほっかほか船橋」プロジェクトを行っており、毎年たくさんの方が参加しています。〔平成26年度提案 葛飾中〕



街灯を増やして街を明るくします！

街灯を増やして、より安全な街にしたい！という提案から、街灯を明るいLED照明に変更したり、暗い道があれば現地の調査を行い、必要かどうかを確認して街灯の設置を行う「船橋市道路照明灯及び道路街路灯設置基準」を策定しました。

〔平成26年度提案 行田中、古和釜中 ほか〕

フォトコンテストを開催します！

船橋市のことをたくさんの人に知ってもらうために、フォトコンテストを開催したい！という提案から、「ふなばし魅力発見フォトコンテスト」を開催しました。写真を通じて船橋の魅力を発信することができ、入賞作品で作成したポストカードは大好評でした。

〔令和元年度提案 飯山満中〕



入賞作品は市HPからご覧いただけます。

伝統文化をPRします！

船橋市には歴史のある場所が多くあることから、伝統文化について知ることで、愛着をもってもらいたい！という提案から「ふなばし歴史・文化フォトラリー」を開催しました。

指定のスポットで写真を撮影するフォトラリーを通して、市内の歴史・文化財の展示施設を巡り、多くの皆さんにその魅力を感じてもらいました。〔平成30年度提案 前原中〕



「梨フェスティバル」を開催します！

船橋のなしをもっとみんなに知ってもらいたい！という提案から、例年行われている「船橋市なし味自慢コンテスト」の名称を変更し、平成29年8月29日にららぽーとTOKYO-BAYで市制施行80周年記念「なしフェスティバル」が盛大に開催され、たくさんのお客様がいらっしゃいました！〔平成27年度提案 古和釜中〕



取掛西貝塚を有名にします！

令和3年10月に国史跡となった取掛西貝塚をもっと有名にしたいという提案から、市では、もっとたくさんの人に船橋の遺跡について知ってもらうために、遺跡マップや取掛西貝塚を紹介するパンフレットを作成し、各校や一般市民の方に配布しました。令和3年度は、皆さんにタブレットが一人1台配布されたのにあわせ、市内全小中学校に遺跡マップと取掛西貝塚を紹介するパンフレットやポスターのデジタル版を配布しました！〔令和3年度提案 高根中〕



本番の様子

第1回



第2回



第3回



第4回





令和七年度子ども未来会議室報告書

編集 集 子ども未来会議室プロジェクト
事務局 船橋市 市長公室 市民の声を聞く課
発行年月日 令和8年3月